

運営・施設部会 報告（現地以外での整備）

Ⅰ 前回審議会後の対応

1 前回審議会での審議結果

（１）増床に向けた取組み

- 今後、国家公務員共済組合連合会千早病院と再編等に向けた具体的な協議を開始する。

【審議会委員の主な意見】

- ・取組みを進める上で、地域医療構想調整会議に諮るタイミングや手続きに留意すること。
- ・どういう診療科を作るかによって病床規模が変わるため、具体的な検討が必要。
- ・10年後、20年後のニーズを捉え、赤字を少なくできるような経営のあり方も検討が必要。

（２）移転候補地の状況と今後の対応

- 移転候補地（３か所）の活用可能時期は未定である一方、感染症や災害対応、施設の老朽化などから早期整備が必要となっている。
- 移転候補地（３か所）について引き続きヒアリング等を進めるとともに、新たな移転候補地となり得る土地を探す。
- 新たな移転候補地については、増床に向けた取組みの状況から新病院の病床規模を300～350床程度と想定し、敷地面積18,000㎡以上の土地を探すこととする。

【審議会委員の主な意見】

- ・公立病院として有事の際に対応できることを考えなくてはならない。
- ・市民病院が果たしている感染症や災害、救急といった機能をなくしてはならないが、今の医療圏の状況や周りの医療機関も考慮してもらいたい。
- ・教育委員会は学校の建替え、小中一体化など進めているため、全体を見ながら広い土地を選定すること。

2 前回審議会後の対応

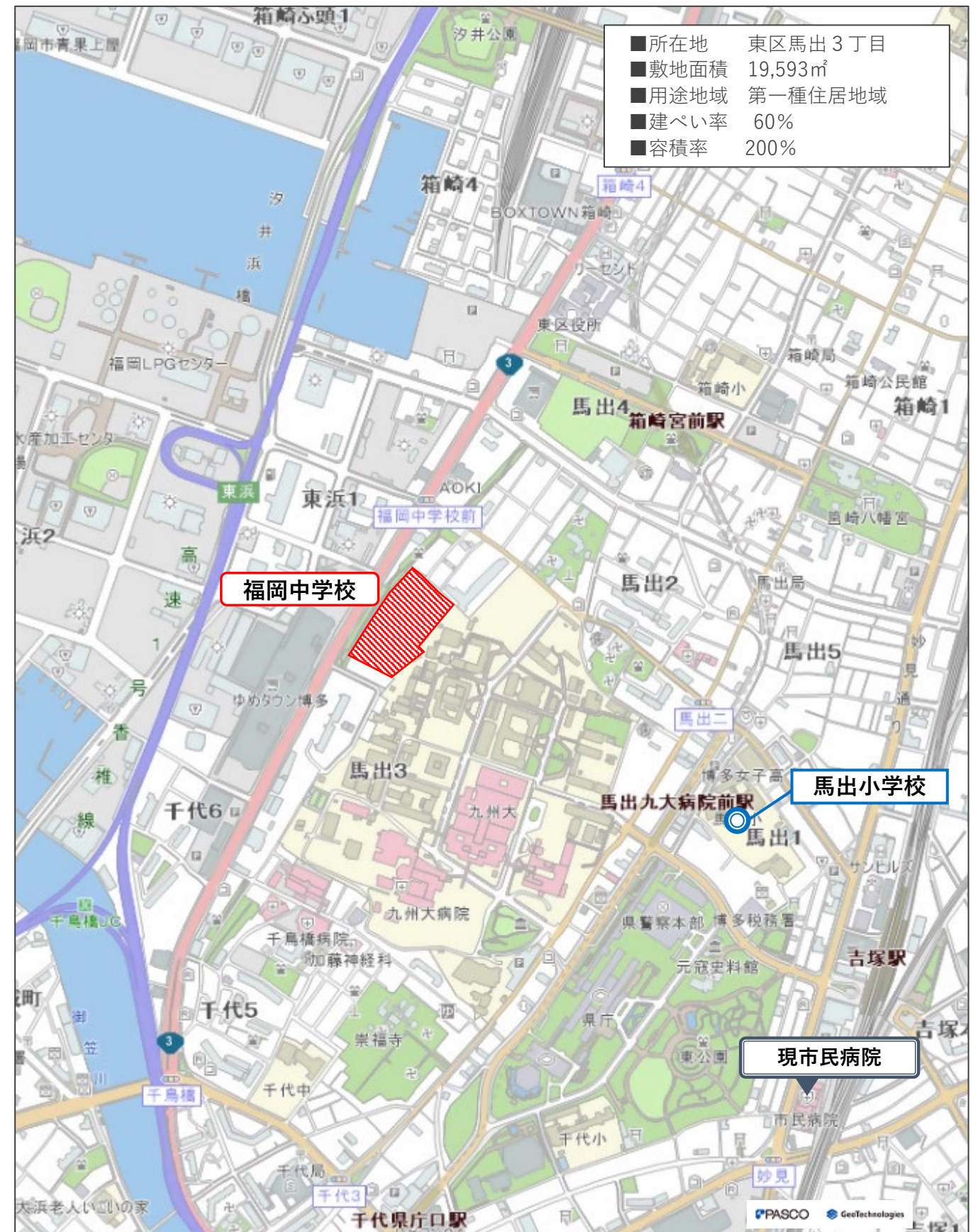
（１）増床に向けた取組み

- 再編等に向けて、情報共有や基本的な考え方などに関する協議を開始した。

（２）移転候補地の状況

- ３か所の移転候補地（かしいかえん跡地、香椎浜ふ頭緑地、箱崎中学校）について、引き続き地権者へヒアリングを行い、敷地面積の変更や土地の活用可能時期（見込み）などを確認した。
- また、これまでの審議会で整理された選定条件（博多区・東区、国・県・市有地等、18,000㎡以上）を基に、新たな移転候補地となり得る土地を探した。
- このうち条件を満たす福岡中学校（右図）について、地権者へのヒアリング等を踏まえ、第7回運営・施設部会において新たな移転候補地として追加された。

【福岡中学校の位置図】



Ⅱ 移転候補地の概要

【位置図】



【移転候補地の概要】

		かしいかえん跡地	香椎浜ふ頭緑地	箱崎中学校	福岡中学校
場所		東区香住ヶ丘 7 丁目	東区香椎浜ふ頭 1 丁目	東区筥松 4 丁目	東区馬出3丁目
敷地面積		約120,000㎡	約40,000㎡	約20,000㎡	約20,000㎡
用途地域 その他制限		第一種住居地域 第二種20M高度地区	第二種住居地域 第二種20M高度地区	第一種住居地域 第二種20M高度地区	第一種住居地域 第二種20M高度地区 準防火地域
建ぺい率/容積率		60%/200%	60%/200%	60%/200%	60%/200%
土地の状況 (地権者等ヒアリング)		○現在、地権者によって、社会情勢や周辺環境等を踏まえ、土地の利活用の検討が行われているところであり、検討の状況や売買時期及び金額、その他条件等によっては取得不可となる可能性もある。	○港湾地区の騒音・振動等を緩和する緩衝機能や、住宅地域の生活環境との調和を創出する修景機能等を目的とした緑地。 ○博多港港湾計画において”その他緑地”として位置付けられていることから、病院用地として利用するには、港湾計画の変更が必要。 ○敷地の一部について、港湾空港局で利用中。 (約45,000㎡⇒約40,000㎡)	○九大箱崎キャンパス跡地への移転が計画されており、想定スケジュールでは、令和9～10年度に新校舎建設工事が行われ、移転後に旧校舎解体工事や区画整理工事等が5年程度実施される予定で、今後学校用地等としての利用が無い場合は活用可能な土地となる。 ○区画整理事業により敷地面積が減歩される。 (約30,000㎡⇒約20,000㎡) ○県の河川改修工事が予定されており、一定の災害対策は図られる見込み。	○馬出小校地への移転（福岡中・馬出小の施設一体型小中学校）が計画されており、地域の理解を得ながら順調に進んだ場合は、令和9～12年度に新校舎建設工事等が行われ、活用可能な土地となる。 ○国道 3 号（西側）との接続に関して、関係部署と協議が必要。 ※建築基準法施行条例上、現在接続している道路（北側）の幅では、延べ面積1,000㎡を超える建物は建設できない。
土地活用可能時期		未定	未定	5 年後以降の活用を想定	5 年以内(R8～R12年度)の活用を想定
医療環境 への影響	現地からの距離	8.0km	8.0km	3.6km	1.6km
	周辺の主な医療機関	・福岡和白病院 ・福岡輝栄会病院 など	・福岡和白病院 ・福岡輝栄会病院 など	・九州大学病院 ・福岡輝栄会病院 など	・九州大学病院 ・千鳥橋病院 など
利便性	最寄り駅	・西鉄・香椎花園前駅 ・JR・九産大前駅	・西鉄・香椎駅 ・JR・香椎駅	・西鉄・地下鉄・貝塚駅 ・JR・新駅（開業予定）	地下鉄・箱崎宮前駅 JR・吉塚駅
	最寄りバス停	・香椎花園	・香椎浜北公園前	・月見町	・馬出三丁目
救急・災害対応	最寄り都市高速出口	・香椎出口	・香椎浜出口	・貝塚出口	・東浜出口
	災害危険度	・洪水：想定なし ・高潮：3.0m以上 ・揺れやすさ：5強	・洪水：想定なし ・高潮：1.0m以上3.0m未満 ・揺れやすさ：6弱	・洪水：0.5～1.0m 一部河岸侵食 ・高潮：3.0m以上 ・揺れやすさ：6弱	・洪水：0.5m未満 ・高潮：3.0m以上 ・揺れやすさ：6強

運営・施設部会 報告（現地以外での整備）

II 移転候補地の概要



運営・施設部会 報告（現地以外での整備）

II 移転候補地の概要



Ⅲ 移転候補地の評価・比較

1 評価・比較項目

多角的、総合的な視点で、市民病院にとって最適な整備場所を選定するため、「①土地の状況・活用性」「②医療環境への影響」「③利便性」「④救急・災害対応」「⑤経済性」の大項目ごとに、各移転候補地の評価・比較を行う。

2 評価方法

（1）配点

市民病院の移転候補地としての評価にあたり、周辺医療環境や既存利用者への影響、災害・救急対応への重要性を考慮し、大項目の配点は下表のとおりとする。（合計100点）

①土地の状況・活用性	②医療環境への影響	③利便性	④救急・災害対応	⑤経済性
12.5点	25点	25点	25点	12.5点

（2）計算方法

- 「小項目の評価基準（P 6 参照）」に基づき、小項目ごとに1点～3点を付ける。
- 小項目得点率（小項目合計得点／満点）に、大項目の配点（上記（1））を乗じて、大項目の得点を算出する。
- 大項目の得点を合算して、合計得点を算出する。

（3）総合評価

合計得点から、移転候補地ごとの総合評価を決定する。

合計得点	70点以上	50～69点	49点以下
総合評価	◎（適）	○（可）	—

＜評価・比較項目＞

大項目	小項目		評価の考え方
①土地の状況・活用性	敷地面積		(基礎データのため評価対象外)
	用途その他制限		
	建ぺい率/容積率		
	土地活用可能時期		感染症や災害対応、施設の老朽化の状況を鑑み、早期整備ができるかという視点で評価
	将来の拡張・建替え、災害等に必要な敷地スペース		将来の拡張・建替え、災害等に必要な敷地スペースが確保できるかという視点で評価
②医療環境への影響	現地からの距離		現在の利用者や周辺医療機関への影響という視点で評価
	周辺医療機関	救急告示病院	市民病院に求められる役割（高度救急医療・災害医療・高度専門医療）を果たすことができるかという視点で、周辺医療機関及び市民病院への影響を評価
		災害拠点病院	
		主な病院	
③利便性	最寄り駅		最寄りの鉄道駅からの距離を評価
	最寄りバス停		最寄りのバス停からの距離を評価
	周辺道路の状況		病院敷地への自動車での進出入の容易さを評価
④救急・災害対応	都市高速出口		最寄りの都市高速出口からの距離を評価
	緊急輸送道路		災害時の物資搬入や救急車両の走行の容易さを評価
	災害危険度		ハザードマップ上の指定内容に応じて総合的な災害危険度を評価
⑤経済性	R7路線価		R7年度の路線価を用いて評価
	建築工事費		(同じ建物を建てる場合、ある程度の整形地であれば、更地からの建築工事費に差は出ないため評価対象外)
	造成工事の必要性		造成工事の必要性の有無を評価

Ⅲ 移転候補地の評価・比較

＜参考＞小項目の評価基準（市民病院の移転候補地として多角的・総合的に評価するため、５つの大項目ごとに小項目を設置）

		評価の考え方	3点	2点	1点
① 土地 の 状 況 ・ 活 用 性	敷地面積	評価対象外（基礎データ）	－	－	－
	用途その他制限		－	－	－
	建ぺい率/容積率		－	－	－
	土地活用可能時期	・感染症や災害対応、施設の老朽化の状況を鑑み、早期整備ができるかという視点で評価。 ・活用可能時期が5年以内（R8年度～R12年度）のものを3、5年後以降（R13年度以降）のものを2、未定のものを1とする。	5年以内 （R8年度～R12年度）	5年後以降 （R13年度以降）	未定
	将来の拡張・建替え、災害等に 必要な敷地スペース	・将来の拡張・建替え、災害等に必要な敷地スペースが十分確保できるかという視点で評価※ ・敷地面積28,000㎡以上の場合を3、18,000㎡以上28,000㎡未満を2、未定を1とする。 ※ こども病院の事例から算出した28,000㎡（R6.6審議会）と、新市民病院を300～350床程度と想定した場合の18,000㎡（R6.12審議会）を使用	28,000㎡以上	18,000㎡以上28,000㎡未満	未定
② 医 療 環 境 へ の 影 響	現地からの距離	・現在の利用者や周辺医療機関への影響という視点で評価。 ・現地からの距離が2 km未満を3、2 km～4 kmを2、4 km以上を1とする。	現地からの距離が 2km未満	現地からの距離が 2km以上4km未満	現地からの距離が 4km以上
	救急告示病院	・求められる役割の一つである高度救急医療を果たすことができるかという視点で、周辺の救急告示病院及び市民病院への影響を評価。 ・最寄りの救急告示病院（救急車受入台数2,000件以上）との距離が4km以上を3、2～4kmを2、2km未満を1とする。	救急告示病院との距離が 4km以上	救急告示病院との距離が 2km以上4km未満	救急告示病院との距離が 2km未満
	災害拠点病院	・求められる役割の一つである災害医療を果たすことができるかという視点で、周辺の災害拠点病院及び市民病院への影響を評価。 ・最寄りの災害拠点病院との距離が4km以上を3、2～4kmを2、2km未満を1とする。	災害拠点病院との距離が 4km以上	災害拠点病院との距離が 2km以上4km未満	災害拠点病院との距離が 2km未満
	主な病院	・求められる役割の一つである高度専門医療を果たすことができるかという視点で、周辺医療機関及び市民病院への影響を評価。 ・最寄りの高度急性期・急性期病床を有する病院との距離が4km以上を3、2～4kmを2、2km未満を1とする。	周辺医療機関との距離が 4km以上	周辺医療機関との距離が 2km以上4km未満	周辺医療機関との距離が 2km未満
③ 利 便 性	最寄り駅	・「鉄道駅からの一般的な徒歩圏800m ^{※1} 」と「交通不便地の目安である鉄道駅から1km以上 ^{※2} 」から、800～1,000mの範囲を基準とする。 ・最寄り駅からの距離が基準より近い場合を3、基準並みの場合を2、遠い場合を1とする。 ※1 H26.8国交省「都市構造の評価に関するハンドブック」より ※2 福岡市生活交通条例より	最寄り駅からの距離が 基準より近い （800m未満）	最寄り駅からの距離が 基準並み （800m以上1,000m未満）	最寄り駅からの距離が 基準より遠い （1,000m以上）
	最寄りバス停	・「バス停からの一般的な徒歩圏300m ^{※1} 」と「交通不便地の目安であるバス停から500m以上 ^{※2} 」から、300～500mの範囲を基準とする。 ・最寄りバス停からの距離が基準より近い場合を3、基準並みの場合を2、遠い場合を1とする。 ※1 H26.8国交省「都市構造の評価に関するハンドブック」より ※2 福岡市生活交通条例より	最寄りバス停からの距離が 基準より近い （300m未満）	最寄りバス停からの距離が 基準並み （300m以上500m未満）	最寄りバス停からの距離が 基準より遠い （500m以上）
	周辺道路の状況	・病院敷地への自動車での進出入の容易さを評価。 ・敷地に接している道路が片側3車線の場合を3、片側2車線の場合を2、片側1車線または中央線のない1車線の場合を1とする。	敷地が片側3車線以上の 道路に接している	敷地が片側2車線の 道路に接している	敷地が片側1車線 または中央線のない1車線の 道路に接している
④ 救 急 ・ 災 害 対 応	都市高速出口	・現在の市民病院における最寄り出口（千代）からの距離1.0km程度を基準とする。 ・最寄り出口からの距離が1km未満を3、1km～2kmを2、2km以上を1とする。	最寄り出口からの距離が 1km未満	最寄り出口からの距離が 1km以上2km未満	最寄り出口からの距離が 2 km以上
	緊急輸送道路	・災害時の物資輸送や緊急車両の走行の容易さの視点で、緊急輸送道路 [※] との近接状況を評価。 ・第1次緊急輸送道路ネットワークに近接している場合を3、第2次緊急輸送道路ネットワークに近接している場合を2、第3次緊急輸送ネットワークに近接している、または緊急輸送ネットワークに近接していない場合を1とする。 ※災害直後から避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道及びこれらをつなぐ基幹的な道路。 ・第1次緊急輸送道路ネットワーク：県庁所在地、地方中心都市及び重要港湾、空港等を連絡する道路 ・第2次緊急輸送道路ネットワーク：第1次緊急輸送道路と市町村役場、主要な防災拠点（行政機関、主要駅、港湾、ヘリポート、災害医療拠点、自衛隊等）を連絡する道路 ・第3次緊急輸送道路ネットワーク：その他の道路	第1次緊急輸送道路に近接している	第2次緊急輸送道路に近接している	第3次緊急輸送道路に近接している または 緊急輸送道路に近接していない
	災害危険度	・洪水、高潮、揺れやすさそれぞれのハザードマップ上の指定内容に応じて、総合的な災害危険度を評価。 ・下記基準で算出した合計値が9～7を3、6～4を2、3を1とする。 【各区分の評価】 ・洪水：0.5m未満を3、0.5m以上3m未満を2、3m以上を1 ・高潮：0.5m未満を3、0.5m以上3m未満を2、3m以上を1 ・揺れやすさ：5強を3、6弱を2、6強を1	合計値が 9～7	合計値が 6～4	合計値が 3
⑤ 経 済 性	R7路線価	・R7路線価が10万円未満を3、10～20万円を2、20万円以上を1とする。	R7路線価が 10万円未満	R7路線価が 10万円以上20万円未満	R7路線価が 20万円以上
	建築工事費	評価対象外（同じ建物を建てる場合、ある程度の整形地であれば、更地からの建築工事費に差は出ない）	－	－	－
	造成工事の必要性	造成工事が不要なものを3、必要となるものを1とする。	造成工事が不要	－	造成工事が必要

運営・施設部会 報告（現地以外での整備）

Ⅲ 移転候補地の評価・比較

3 移転候補地の評価結果 ※評価方法（P5～6）に基づき、市民病院の移転候補地としての評価を行ったもの

大項目	小項目	箱崎中学校		福岡中学校		香椎浜ふ頭緑地		かしいかえん跡地		
		土地の状況	小項目 得点	土地の状況	小項目 得点	土地の状況	小項目 得点	土地の状況	小項目 得点	
① 土地 の 活 状 用 況 性 ・	敷地面積	約20,000㎡	－	約20,000㎡	－	約40,000㎡	－			
	用途地域	第一種住居地域	－	第一種住居地域	－	第二種住居地域	－			
	建ぺい率/容積率	60%/200%	－	60%/200%	－	60%/200%	－			
	土地活用可能時期	5年後以降	2	5年以内	3	未定	1			
	将来の拡張・建替え、 災害等に必要な敷地スペース	18,000㎡以上28,000㎡未満	2	18,000㎡以上28,000㎡未満	2	28,000㎡以上	3			
	小項目得点率	67%（小項目計 4点/6点）		83%（小項目計 5点/6点）		67%（小項目計 4点/6点）				
12.5点	大項目得点	8.4点		10.4点		8.4点				
② 医 療 の 環 境 響	現地からの距離	3.6km	2	1.6km	3	8.0km	1	民有地であり、公にすることで、 法人の競争上の地位その他正当 な利益を害するおそれがあるた め、福岡市情報公開条例第7条第 2号に規定する非公開情報に該当 し、非公開		
	救急告示病院	2.8km（輝栄会病院）	2	0.7km（千鳥橋病院）	1	2.5km（輝栄会病院）	2			
	災害拠点病院	4.1km（九州大学病院）	3	1.6km（九州大学病院）	1	5.2km（福岡和白病院）	3			
	主な病院	2.8km（輝栄会病院）	2	0.7km（千鳥橋病院）	1	2.5km（輝栄会病院）	2			
	小項目得点率	75%（小項目計 9点/12点）		50%（小項目計 6点/12点）		67%（小項目計 8点/12点）				
	大項目得点	18.8点		12.5点		16.8点				
25点	大項目得点	18.8点		12.5点		16.8点				
③ 利 便 性	最寄り駅	西鉄・地下鉄・貝塚駅（0.4km）	3	地下鉄・箱崎宮前駅（0.7km）	3	西鉄・香椎駅（1.8km）	1			
	最寄りバス停	月見町（0.2km）	3	馬出三丁目（0.1km）	3	香椎浜北公園前（0.4km）	2			
	周辺道路の状況	前面道路中央線無し1車線	1	前面道路片側3車線 ※敷地との間に緑地あり	3	前面道路片側1～2車線	2			
	小項目得点率	78%（小項目計 7点/9点）		100%（小項目計 9点/9点）		56%（小項目計 5点/9点）				
	大項目得点	19.5点		25.0点		14.0点				
25点	大項目得点	19.5点		25.0点		14.0点				
④ 救 災 急 ・ 対 応	都市高速出口	貝塚出口（1.9km）	2	東浜出口（0.7km）	3	香椎浜出口（1.3km）	2			
	緊急輸送道路	近接していない	1	第一次緊急輸送道路に近接している ※敷地との間に緑地あり	3	第二次緊急輸送道路に近接している	2			
	災害危険度	洪水：0.5～1.0m、一部河岸侵食 高潮：3.0m以上 揺れやすさ：6弱	2	洪水：0.5m未満 高潮：3.0m以上 揺れやすさ：6強	2	洪水：想定なし 高潮：1.0m以上3.0m未満 揺れやすさ：6弱	3			
	小項目得点率	56%（小項目計 5点/9点）		89%（小項目計 8点/9点）		78%（小項目計 7点/9点）				
	大項目得点	14.0点		22.3点		19.5点				
25点	大項目得点	14.0点		22.3点		19.5点				
⑤ 経 済 性	R7路線価	15.5万円／㎡（平均値） ※区画整理工事前	2	25.5万円／㎡（平均値）	1	11.5万円／㎡（近接地）	2			
	建築工事費	更地からの建築工事費に差は出ない	－	更地からの建築工事費に差は出ない	－	更地からの建築工事費に差は出ない	－			
	造成工事の必要性	不要（区画整理事業が行われているため）	3	必要（車両出入口整備のため）	1	必要 （宅地としての環境を整備するため）	1			
	小項目得点率	83%（小項目計 5点/6点）		33%（小項目計 2点/6点）		50%（小項目計 3点/6点）				
	大項目得点	10.4点		4.1点		6.3点				
12.5点	大項目得点	10.4点		4.1点		6.3点				
合計得点（総合評価）		71.0点	(適)	74.3点	(適)	64.9点	(可)		(可)	

運営・施設部会 報告（現地以外での整備）

Ⅲ 移転候補地の評価・比較

3 移転候補地の評価結果（まとめ） ※評価方法（P5～6）に基づき、市民病院の移転候補地としての評価を行ったもの

大項目		箱崎中学校		福岡中学校	
		小項目 得点率	大項目得点	小項目 得点率	大項目得点
①土地の状況・活用性	12.5点	67%	8.4点	83%	10.4点
②医療環境への影響	25点	75%	18.8点	50%	12.5点
③利便性	25点	78%	19.5点	100%	25.0点
④救急・災害対応	25点	56%	14.0点	89%	22.3点
⑤経済性	12.5点	83%	10.4点	33%	4.1点
合計得点		71.0点		74.3点	
総合評価 70点以上　： ◎（適） 50点～69点： ○（可） 49点以下　： －		◎（適）		◎（適）	
		＜他の移転候補地との比較＞ ・「②医療環境への影響」、「⑤経済性」は最も高く、 「①土地の状況・活用性」、「③利便性」は2番目に高い。 ・「④救急・災害対応」は低い。		＜他の移転候補地との比較＞ ・「①土地の状況・活用性」、「③利便性」、 「④救急・災害対応」は最も高い。 ・「②医療環境への影響」、「⑤経済性」は低い。	
特記事項		・隣接する河川について、県による改修工事が予定されており、一定の災害対策は図られる見込み。		・現病院との距離が近く、医療環境は現状と大きく変わらない。 ・病院のような大規模施設を建設するためには、国道3号との接続が必要。	

※かしいかえん跡地と香椎浜ふ頭緑地については、現地からの距離などから、部会での総合評価は可